

みき通信

日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告



第82号 2018年6月30日

発行 がんばれ くぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)

対立から対話へ

トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩国務委員長が、6月12日シンガポールで会談しました。長年敵対し、ついこのあいだまで一触即発だったアメリカと北朝鮮の首脳の会談は歴史的出来事です。

2人は「朝鮮半島の完全な非核化」と「北朝鮮に対する安全の保障の提供」を相互に約束する共同声明に署名し、朝鮮半島に永続的で安定した平和体制を構築することを表明しました。

共同声明が「具体的でない」「踏み込み不足」などという批判に対して、ジャーナリストの青木理さんは、「今回の会談は『始まりの始まり』で、問われるのは両首脳のこれからの行動」と、朝鮮半島の平和と安定を実現する上で重要な会談と評価しています。

日本はこの間一貫して、北朝鮮への制裁と圧力を強調してきました。しかし、拉致問題の解決のためにも、米国頼みの姿勢ではなく、解決済みとする北朝鮮の態度を変える独自の外交の道を開かなくてはなりません。

改ざん、ねつ造、隠ぺい、廃棄など安倍首相のウソにつじつまを合わせるために、今の国会は歴史的な犯罪行為が繰り返されるという異常事態。

更に、おごる自公与党は過労死を促進する働き方改革一括法案や、刑法が禁じる賭博を合法化するカジノ法案など国民が反対する悪法を成立させるために、6月20日に会期末を迎えた通常国会を、7月22日までの延長を強行しました。

このような今の政府に、大きく変容している国際情勢に対応する力があるかどうか、。

あきらめずに疑惑を追及し「アベ政治はNO!」の声を上げていきましょう!

一般質問を行いました

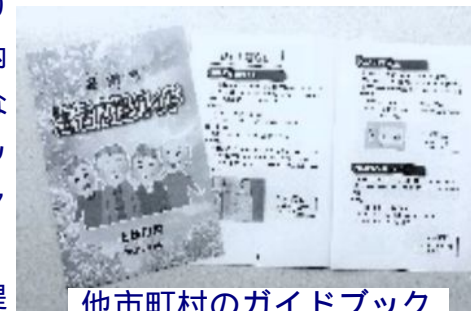
町議会議員 くぼた みき

高齢者福祉の充実

葉山町では要介護3以上の方が紙おむつ支給事業の対象者ですが、手元に届いていない方もいらっしゃいます。受給方法など情報発信に不足があるのではと質問しました。「介護認定時、ケアマネが説明しているが、今後強化する」と言う事でした。

「どこに相談に行けばよいのか」「どんなサービスがあるか」などの声に、町の対応は「質問には状況に応じた説明をしている。介護保険事業計画変更時に各町内会に出向き説明している」との事で、行き渡っているか疑問が残ります。

後期高齢者医療保険、介護保険などわかりにくい制度内容や、葉山町独自のサービス内容など、齢を重ねたことで必要となる様々な情報を、高齢者向けの生活全般のガイドブックにまとめることを求めました。「その時々でお知らせしているが、まとめたものはなく、検討したい」とのこと。分かりやすい情報提供が必要です。



他市町村のガイドブック

イノシシ施策の発展 葉山町では、現在100頭近いイノシシが生息しており、捕獲・殺処分後、地中に埋めていると言う事です。捕獲したイノシシを、ジビエ等に利用できないかと質問しました。「安定した捕獲数の確保や設備費用との兼ね合いから、事業化は難しい」という答弁でした。根絶は難しく、補助金を受け事業を行っている自治体もあり、「獣」といっても命を無駄にしないような今後の取り組みを求めます。また、一部ボランティア



葉山に生息するイノシシ

で行っている出没対策としてのやぶ刈りの労力や、捕獲作業などは、わなの設置、日々の見廻り、殺処分等、労力は並大抵ではありません。行政としての支援等を求め、質問しました。「わずかな支援は行っているが、研究したい」という答弁で、しっかりとした支援を求めます。

核戦争の脅威から抜け出す扉を開いた史上初の米朝首脳会談(12日)。その意義や展望を各界の識者が語る新シリーズ「どうみる米朝首脳会談」を始めます。第1回は、作家の室井佑月さんと北朝鮮問題の専門家の磯崎敦仁・慶応義塾大学准教授です。

新シリーズ どうみる 米朝首脳会談



米朝首脳会談で握手する金正恩・北朝鮮国務委員長(左)とトランプ大統領(朝鮮中央通信/ロイター)

歴史残る第一歩の日



慶応義塾大学准教授
いそだき あつひと
磯崎 敦仁 さん

米朝両国は、3年間の朝鮮戦争(1950〜53年)を含め約70年間、極端な敵対関係にありました。特に昨年、両国首脳は「リトル・ロケットマン」一老いぼれどこのしりあい、緊張が高まりました。その2人が今回、史

上初めて会談し、歴史的和解を世界にアピールしました。会談の開催自体は評価されるべきです。曖昧な表現ではあれ、包括的な合意文も出されました。大局的に見れば米中米・ベトナム米・キューバの国交正常化と同様の過程に向かう第一歩の日として、歴史に残るでしょう。

対話の方向よかった

米朝会談について批判的に語る人がいますが、本当にそうでしょうか。私は、北東アジアの平和という点から見ると、とても良いこと



作家 室井 佑月 さん

だと思っています。米朝間では、つい最近まで核戦争がいつ起こっても不思議でない緊迫した状況でした。しかし今は違います。対立ではなく対話による平和解決の方向で動いています。これは喜ばしいことです。会談で合意した「朝鮮半島の非核化」「平和体制の構築」の実現に向け米朝はじめ関係各国が努力し

てほしいです。

安倍政権や自民党は、「北朝鮮の脅威」を理由に「イージス・アショア(陸上配備型迎撃ミサイルシステム)の配備や、約5兆円の防衛費を倍増しよう」としています。しかし米朝関係が変化したのですから、その根拠自体がなくなります。世界は変わってきています。それでも、これまでのような「北朝鮮の脅威」を利用した軍拡などをやるなら、安倍首相にももう辞めてもらうしかありません。